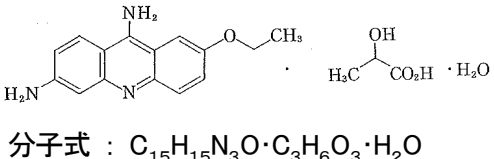


ドラッグインフォメーション

平成 26 年 3 月改訂

販売名	アクリノール 0.2%液「ヨシダ」	製造販売元	吉田製薬株式会社							
洋名	0.2% Acrinol Solution “Yoshida”	発売年月	1987 年 10 月							
一般名	アクリノール水和物 0.2%液	薬価収載年月	1987 年 10 月							
剤形	液剤	薬価	10mL 7.30	健保適用						
規制区分	普通薬	日本標準商品分類番号	872619							
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2619700Q2032	YJコード	2619700Q2032							
製品説明	アクリノールはグラム陽性・陰性菌を通じて栄養型細菌には有効ですが、芽胞、ウイルスには効果がありません。またアクリノール液はガーゼタンポンとして創傷深部に挿入適用されるため滅菌が必要となってきます。本剤はアクリノール液を滅菌処理した製剤です。(滅菌済)									
構造式	 <p>分子式：C<sub>15</sub>H<sub>15</sub>N<sub>3</sub>O·C<sub>3</sub>H<sub>6</sub>O<sub>3</sub>·H<sub>2</sub>O</p>	性状	黄色澄明の液で、においはなく、収れん性の苦味がある。							
組成	アクリノール水和物 0.2%水溶液									
効能効果	化膿局所の消毒 泌尿器・産婦人科術中術後、化膿性疾患(せつ、よう、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎) 口腔領域における化膿局所の消毒									
用法用量	化膿局所の消毒：0.05～0.2%の液として使用する。 含嗽：0.05～0.1%液で含嗽する。									
配合変化	アクリノール水和物は水にやや溶けにくい乳酸塩であるが、塩酸塩は溶けにくい(1→260)。したがって、Cl <sup>-</sup> が共存する場合は、濃度により塩酸塩、塩酸エタクリジンを析出することがある。									
薬理作用	各種化膿菌、特にレンサ球菌、ウェルシュ菌、ブドウ球菌、淋菌に対し、静菌及び殺菌作用がある。作用機序は、生体でアクリジニウムイオンとなり細胞の呼吸酵素を阻害するといわれている。生体組織にほとんど刺激を与えず、血清たん白質の存在下でも殺菌力は低下しない。									
毒性	致死量〔アクリノール水和物として〕 マウス：75mg/kg(皮下)、41.65mg/kg(腹腔) ウサギ：100mg/kg(皮下)、50mg/kg(腹腔、静脈)									
使用上の注意	<p>1. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1" data-bbox="263 1534 1364 1646"> <thead> <tr> <th>種類\頻度</th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>皮膚 <small>注1)</small></td> <td>塗布部の疼痛、発赤、腫脹等があらわれ、さらに潰瘍、壊死を生じる</td> </tr> <tr> <td>過敏症 <small>注2)</small></td> <td>過敏症状</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 1) 症状があらわれた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。 注 2) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。</p> <p>2. 適用上の注意 外用にのみ使用し、内服しないこと。</p>				種類\頻度	頻度不明	皮膚 <small>注1)</small>	塗布部の疼痛、発赤、腫脹等があらわれ、さらに潰瘍、壊死を生じる	過敏症 <small>注2)</small>	過敏症状
種類\頻度	頻度不明									
皮膚 <small>注1)</small>	塗布部の疼痛、発赤、腫脹等があらわれ、さらに潰瘍、壊死を生じる									
過敏症 <small>注2)</small>	過敏症状									
取扱上の注意	貯法：遮光した気密容器に入れ、室温保存 その他：本品で着色すると脱色しにくいので、必要以外のものに付着しないよう注意すること。									
備考	包装単位：500mL 使用期限：3年間	文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央 5-1-10 TEL 03-3381-2004							